

池内遺跡の発掘調査

平成 28 年 1 月 16 日

松原市教育委員会・公益財団法人 大阪府文化財センター



土製品・石製品・石器

上左が土製勾玉、上右が滑石製紡錘車、
下左から3点が双孔円板、その上が白玉、
下右がサヌカイト製石鏃。

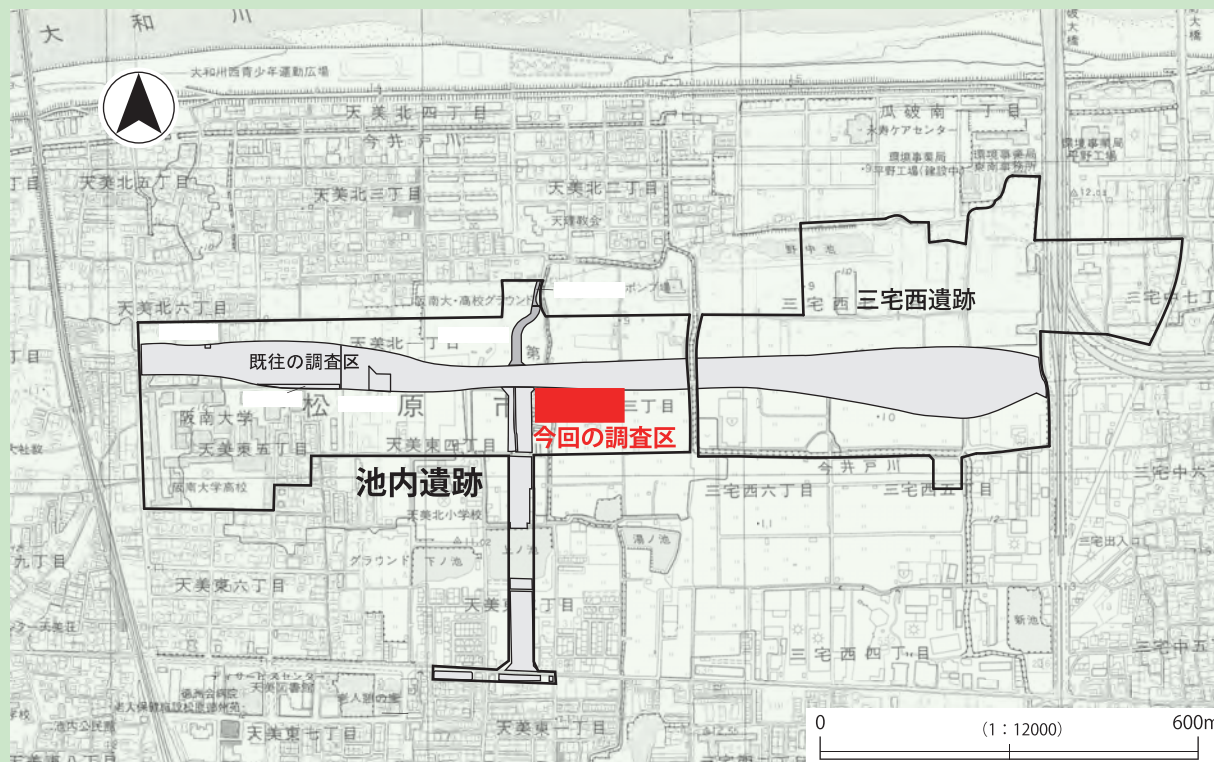
土器以外でも祭祀に関連する遺物が出土しています。



須恵器

上左と下左が杯身、上右が高杯、
下中が壺蓋、下右が高杯蓋。

古墳時代中期から後期初めの須恵器が
多数出土しています。



池内遺跡の位置

池内遺跡発掘調査現地説明会資料
発行年月日:平成28年 1月16日
発行:松原市教育委員会
公益財団法人 大阪府文化財センター



I－b 2区遺構面全景（南東から）

池内遺跡は、松原市天美北1・6丁目と天美東3・5丁目に所在する弥生時代から中世の遺跡です。遺跡の範囲は東西 1.1 km、南北 0.7 km にも及びます。今までに、弥生時代前期（約2300年前）の環濠集落や水田、平安時代（約1200～1000年前）の集落などとその時期の遺物が発見されてきました。

今回の調査は天美東土地区画整理事業に伴うもので全体で約15,000㎡を調査します。

調査でみつかった代表的な遺構は、弥生時代後期から古墳時代（約1900～1700年前）の土坑群、平安時代の建物などです。弥生時代後期から古墳時代中期の土坑群の中には、底近くに完形やそれに近い土器を意図的に入れたものもあります。土坑のうち深いものは井戸の可能性があり、井戸を廃絶する際に祭祀が行われた可能性があります。

また、古墳時代の土坑からは、白玉、双孔円板、土製勾玉などの祭祀をうかがわせるものもみつっています。

平安時代は掘立柱建物や土坑、溝、轆など、人が生活していた痕跡がみつっています。周辺の調査でも平安時代前期から中期の建物や溝、井戸など古代の集落があったことがわかっており、集落がより広がっていたことが確認できました。（※現在調査中のため、細かい時期区分などは変更になる可能性があります。）



① 1－a区 東半（北から）
南北に長辺をもつ2間×3間の^{ほったてばしらたてもの}掘立柱建物です。底に木が敷かれた柱穴や土師器杯が入っていた柱穴もあります。



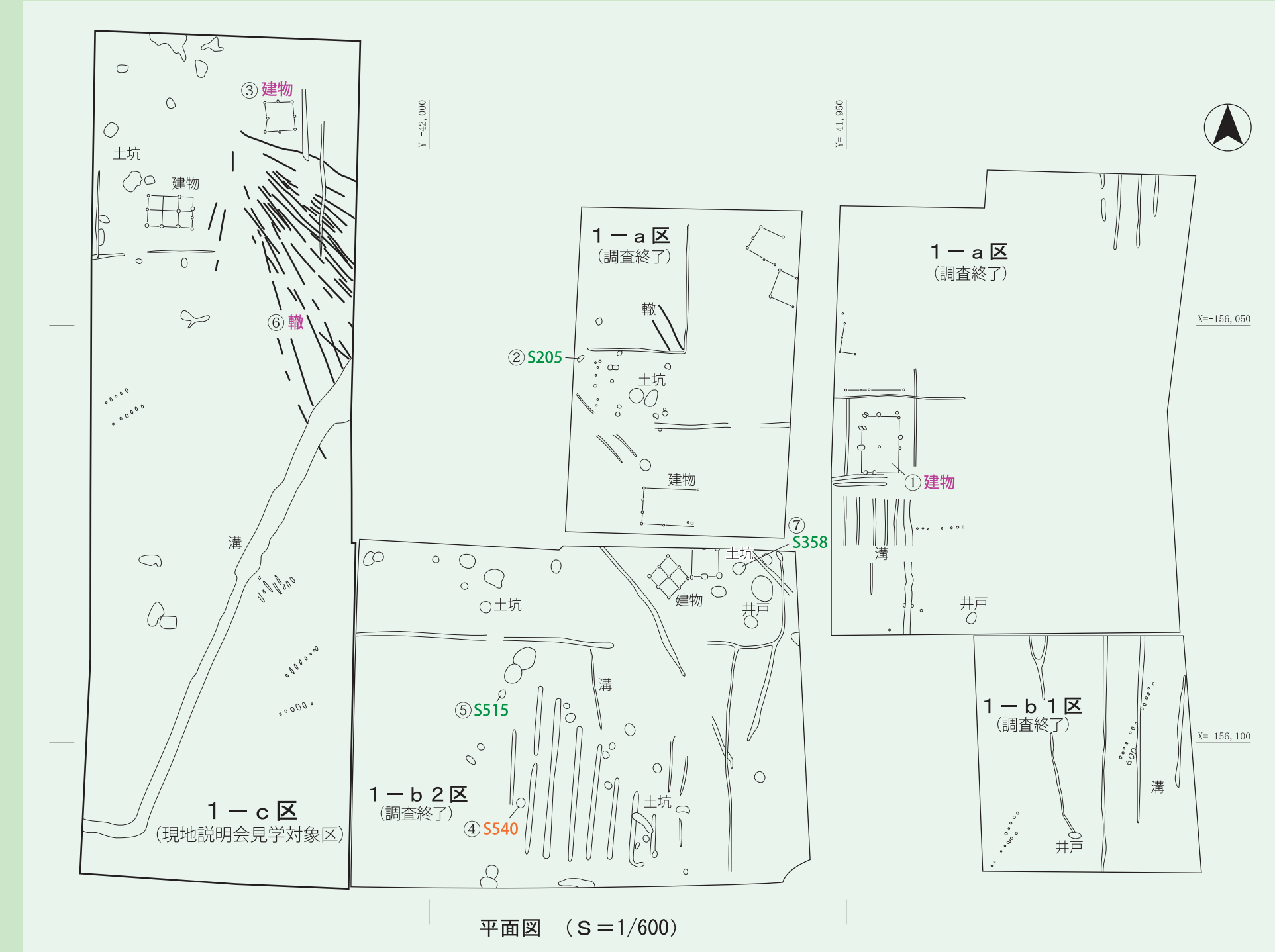
② 1－a区 土坑(S205)内土器出土状況
古墳時代中期の小形の高杯・器台や丸底壺が土坑の底から発見されました。



③ 1－c区 掘立柱建物検出状況（東から）
2間×2間の建物です。



④ 1－b 2区 土坑(S540)内土器出土状況
弥生時代後期前葉の壺と高杯、小形高杯が入っていました。



⑤ 1－b 2区 土坑(S515)内土器出土状況
直径約1mの円形土坑から古墳時代中期の土師器甕が2個体みつかりました。



⑥ 1－c区 ^{わだち}轍検出状況
1.5mの等間隔で細い溝が放射線状に多数みつかりました。牛車や馬車の車輪の痕跡と考えられます。



⑦ 1－b 2区 土坑(S358)内土器出土状況
直径約3m、深さ約2mある土坑（井戸）から古墳時代中期の須恵器や土師器がみつかりました。